



東京大学大学院修了

七飯町を よりよい町へ

- 駒ヶ岳噴火を想定した防災計画を再構築し、命を守る備えを整える
- 図書館・体育館などの社会福祉施設を防災拠点として再設計し、七飯高校と連携した生涯学習センターとし街の憩いの場へ
- 教育と地域の連携を強化し、町の歴史と未来をつなぐ人を育てる
- 再生可能エネルギーと地域資源を活かした経済循環を確立し、七飯ブランドを築く
- 行政の財務・運営を見直し、持続可能で安心できるまちづくりを実現する

七飯町政対策委員

白沢
しらさわ
ゆうき

PROFILE

七飯町生まれ。

国際基督教大学 (ICU)・東京大学大学院で生命科学を学び、NPO 法人日本細胞農業協会の立ち上げ、出版社での編集、総務省系のコンサルティング会社、政治家向け SaaS の開発責任者、訪問診療代行事業の立ち上げ、商社での経営企画、アプリの個人開発や DX コンサル等を経て七飯町へ U ターン。科学とまちづくりをつなぎ、七飯の人と自然の力を未来へつなげる活動に取り組む。

資格

- 防災士
- G 検定
- 簿記 2 級
- E 資格 JDLA 認定プログラム修了
- 令和 6 年度中小企業支援科目合格者
(経済学・財務・法務・情報)
- 令和 7 年度中小企業支援科目合格者 (企業経営理論)

1

まちを耕す

災害に強い基盤づくり

駒ヶ岳の噴火は「いつか起こる」ではなく「いつ起きてもおかしくない」段階にあります。七飯町にとって、最も代替のきかない資産は町民の命です。防災において「トライ＆エラー」のエラーは許されません。必要なのは、正確なデータと科学的根拠に基づいた、確実な備えです。

地形・気象・噴火履歴を踏まえたハザードマップを再整備し、避難ルートや拠点配置を町民と共に再設計します。防災士としての経験を活かし、行政と住民が一体となって学ぶ「町民防災会議」を設置。災害時に命を守る図書館・体育館などの社会福祉施設は、町民参加型で再検討し、防災と日常を両立できる“まちの心臓”として整備します。

2

人を育てる

教育と地域の再生

七飯の未来を支えるのは「人」です。社会減を止めるには、子どもが「ここに残りたい」、町を離れた若者が「ここに帰ってきたい」と思えるまちをつくることが必要です。

町史を町民全員で編む「町史共同編纂プロジェクト」を立ち上げ、地域の人が教え、子どもが記録し、町の物語を次世代へ伝える仕組みをつくります。地域のルーツを学ぶことは、自分のまちに誇りを持つ第一歩です。

また、地元企業や農家と連携し、“働きながら学ぶ”実践型教育を推進します。上述の社会福祉施設内に七飯高校との連携を掲げた生涯学習センターを配置して、教育と仕事を結びつけ、町が人を育て、人が町を動かす——そんな循環を生み出します。

3

富を分かち合う

地域経済の循環へ

地域の力を経済に変えるために、七飯ブランドを確立します。農業・観光・ものづくり・食文化を連携させ、「七飯産だから信頼できる」「七飯だから買いたい」と言われる経済的な軸をつくります。

デジタル地域振興券を活用し、消費・健康・福祉を連動させた新たな地域経済モデルを構築。町内で生まれた富を町内に還元し、すべての住民が恩恵を感じられる循環を実現します。

りんごの剪定枝スモークや地場加工品などのブランド化を通じて、季節や産業の偏りを超えて安定した雇用を生み出します。

「人を育て、経済を育て、暮らしを守る」七飯町を築きます。全ての町民が、安心して暮らし、誇りをもって次世代へまちを託せる社会を実現します。

